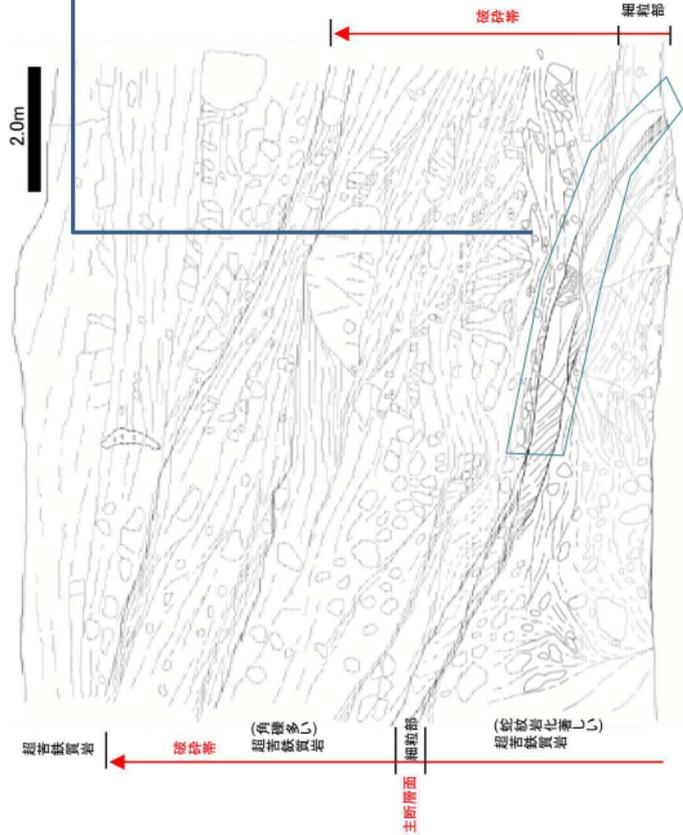
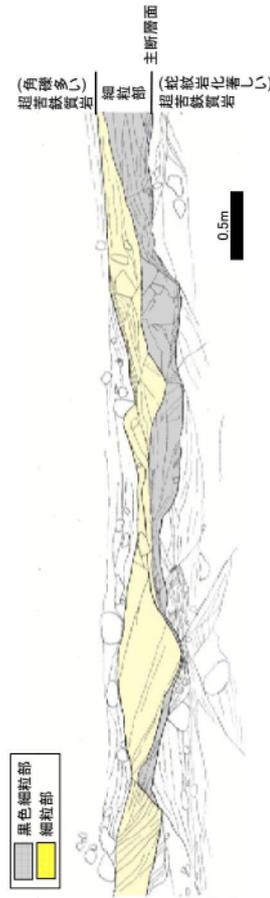
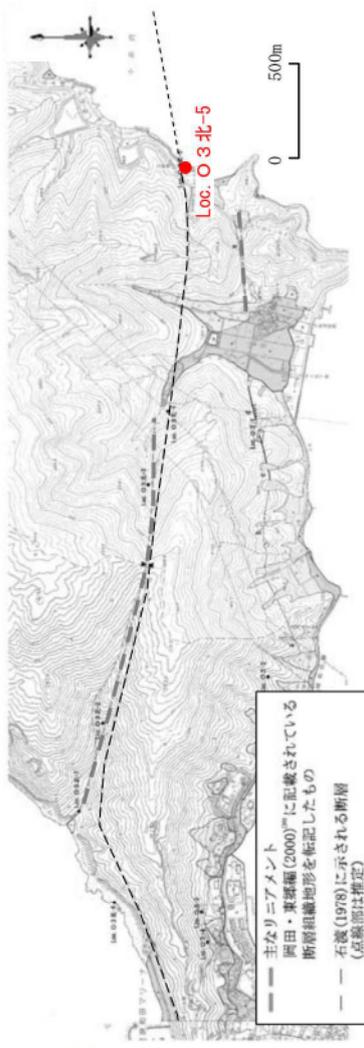


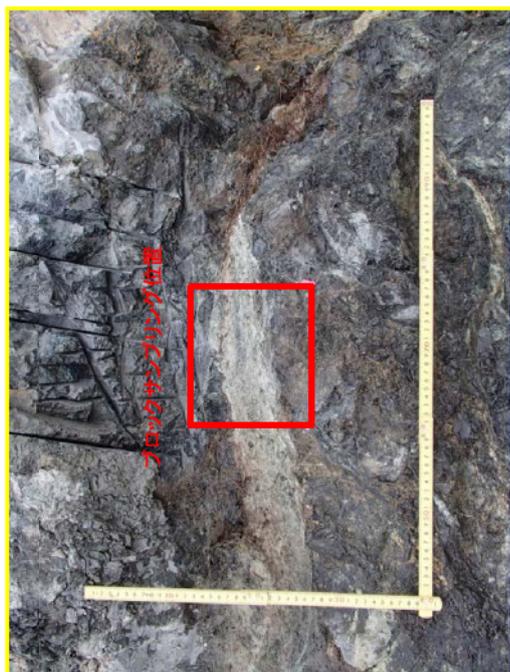
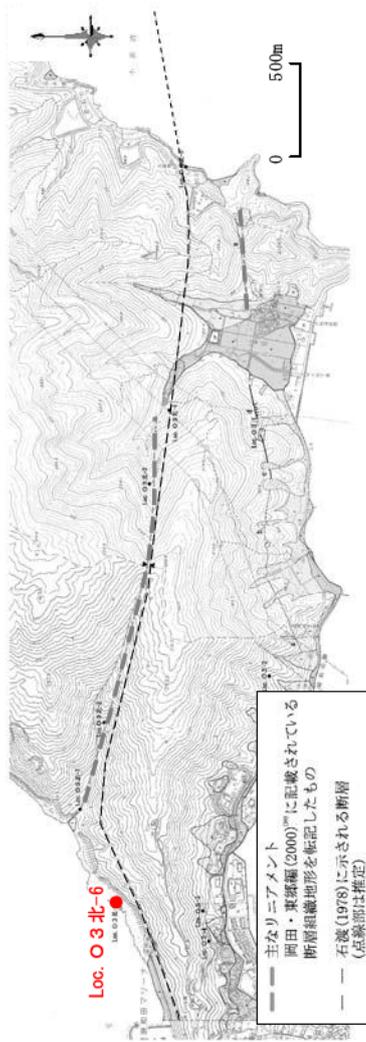
・リニアメント付近でかんらん岩中に挟在する蛇紋岩を確認した。
 ・蛇紋岩中に認められる面構造はおおむねWNW-ESE走向であり、リニアメントの方向と調和的である。
 ・蛇紋岩中には、ある一定方向の卓越するせん断構造は認められない。部分的に粘土〜りん片状を呈する著しく蛇紋岩化した箇所も見られるが、その分布は不規則な樹枝状あるいはモザイク状である。

第 3.3.48 図 O3リニアメント (北) 露頭観察結果 (Loc. O3北-4)



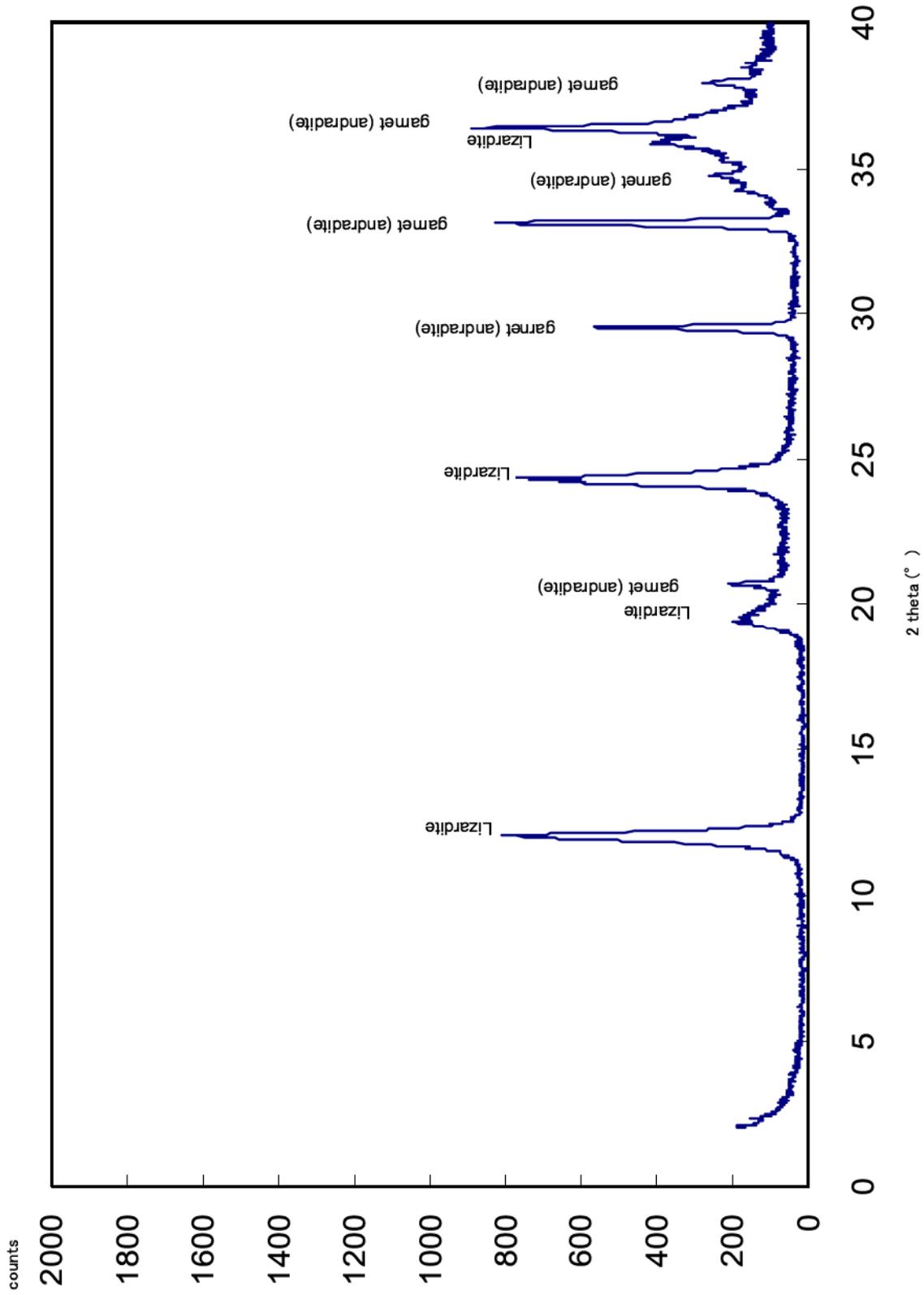
・リニアメント延長部の大島半島東岸のLoc.O3北-5において、蛇紋岩中に断層を確認した。
 ・破砕帯は約10m～15m程度であり、全体が固結している。
 ・認められた破砕帯中で、比較的連続的でない断層構造があり、最も細粒な部分を主断層面として評価した。
 ・露頭中央付近に細粒な主断層面が認められた。
 ・主断層面は露頭中で膨縮し、直線性に欠ける。また、固結しており、軟質な断層ガウジは認められない。
 ・黒色細粒部の幅は2cm～30cm程度であり、固結している。
 ・主断層面の走向傾斜は、おおむねENE-WSWの走向が多く、傾斜は高角度のNW～N傾斜である。

第 3.3.49 図 O3 リニアメント (北) 露頭観察結果 (Loc. O3北-5)



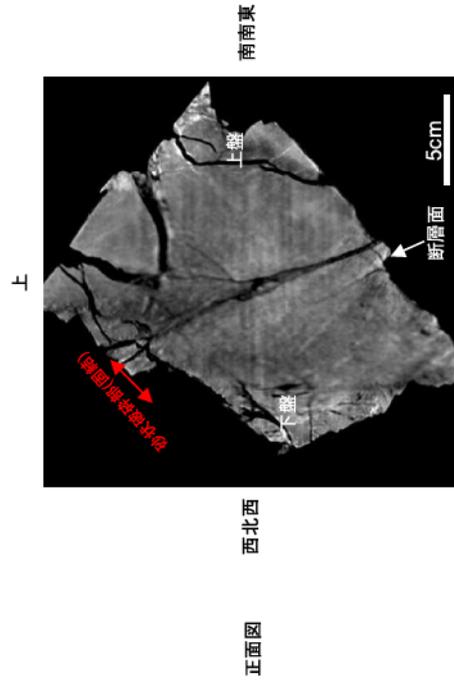
・断層の走向傾斜はN67E/68S。砂状破砕部からなり、固結している。幅は10cm～20cm程度。
 ・断層は、破砕部に直線的で連続の良い断層面は認められない。

第 3.3.50 図 O3リニアメント (北) 露頭観察結果 (Loc. O3北-6)

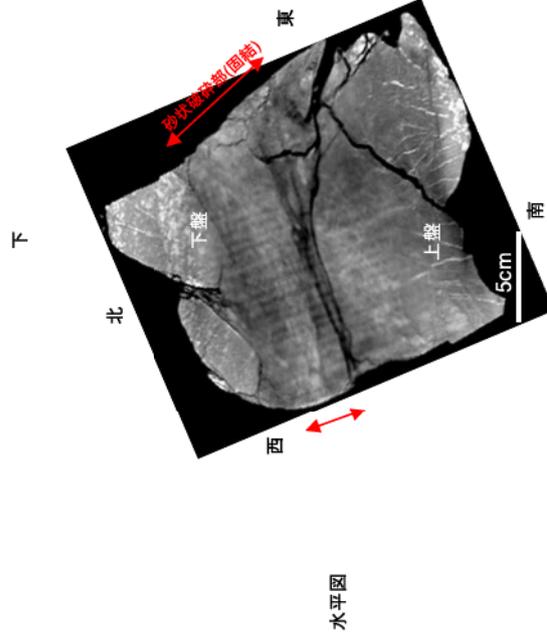


断層面に認められる鉱物は蛇紋石 (Lizardite)、ざくろ石類 (Andradite) である。

第 3.3.51 図 O 3 リニアメント (北) X 線回折法による分析結果 (Loc. O 3 北-6)



正面図

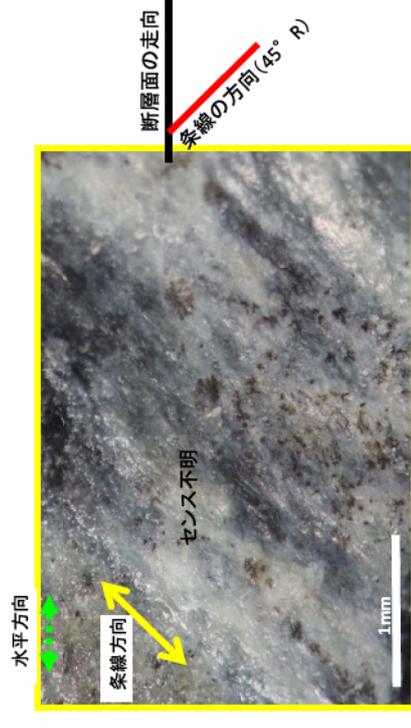


水平図

断層の走向傾斜：TN67E/68S
 縦ずれ成分：不明、横ずれ成分：不明
 固結した砂状破砕部

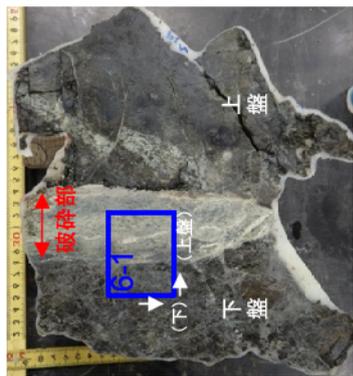


上盤下面



断層面の状況(最新面近傍の断層面：上盤側)

鉱物によって被覆された不明瞭な条線が認められた。

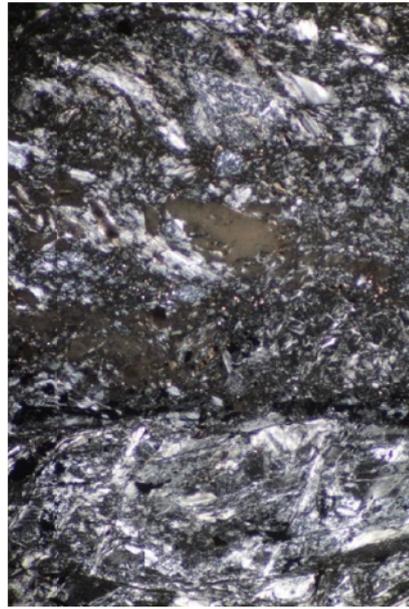
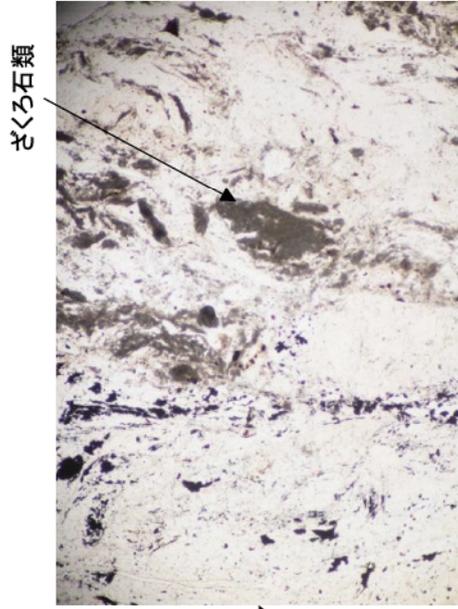


※CT画像解析と向きを合わせるため画像を反転している

□ 薄片作成位置

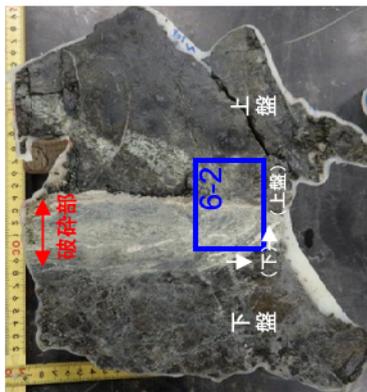


↑
↓



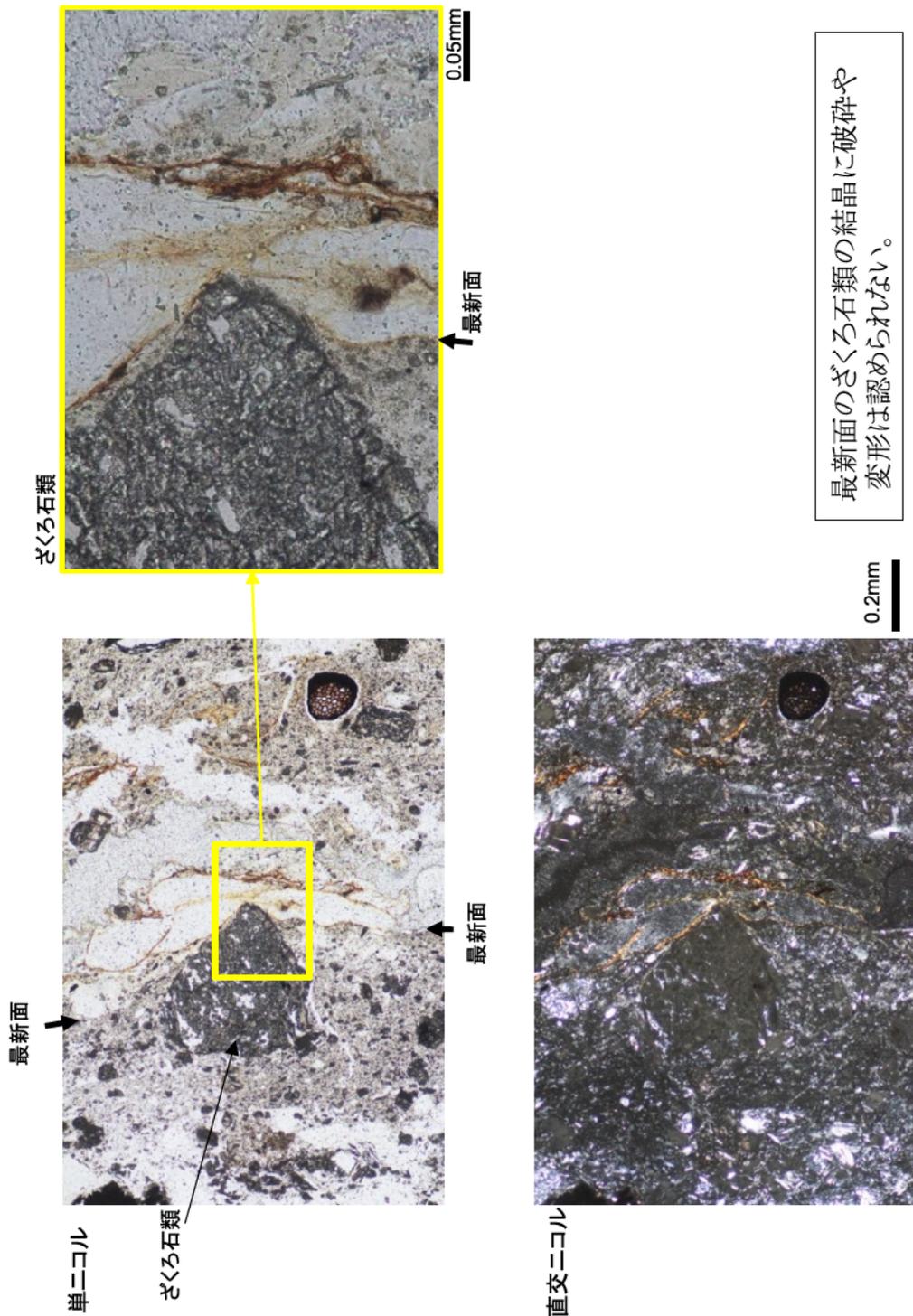
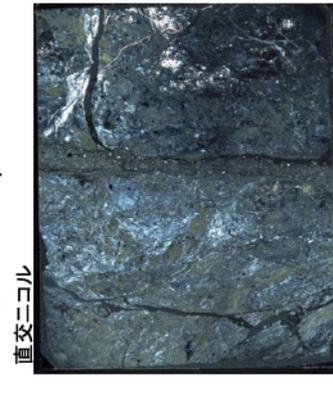
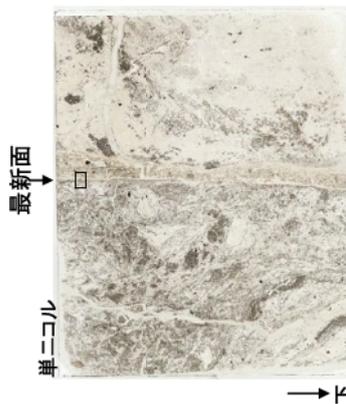
- 破碎部では、塑性的な変形が認められる。
- また、破碎部にはざくろ石類 (andradite) が晶出し、結晶に破碎や変形は認められない。

第 3. 3. 53 図 (1) O 3 リニアメント (北) 薄片観察結果 (Loc. O 3 北-6) (1)



※CT画像解析と向きを合わせ合わせるため画像を反転している

□ 薄片作成位置



最新面のざくろ石類の結晶に破碎や変形は認められない。

第 3.3.53 図 (2) O 3 リニアメント (北) 薄片観察結果 (Loc. O 3 北-6) (2)

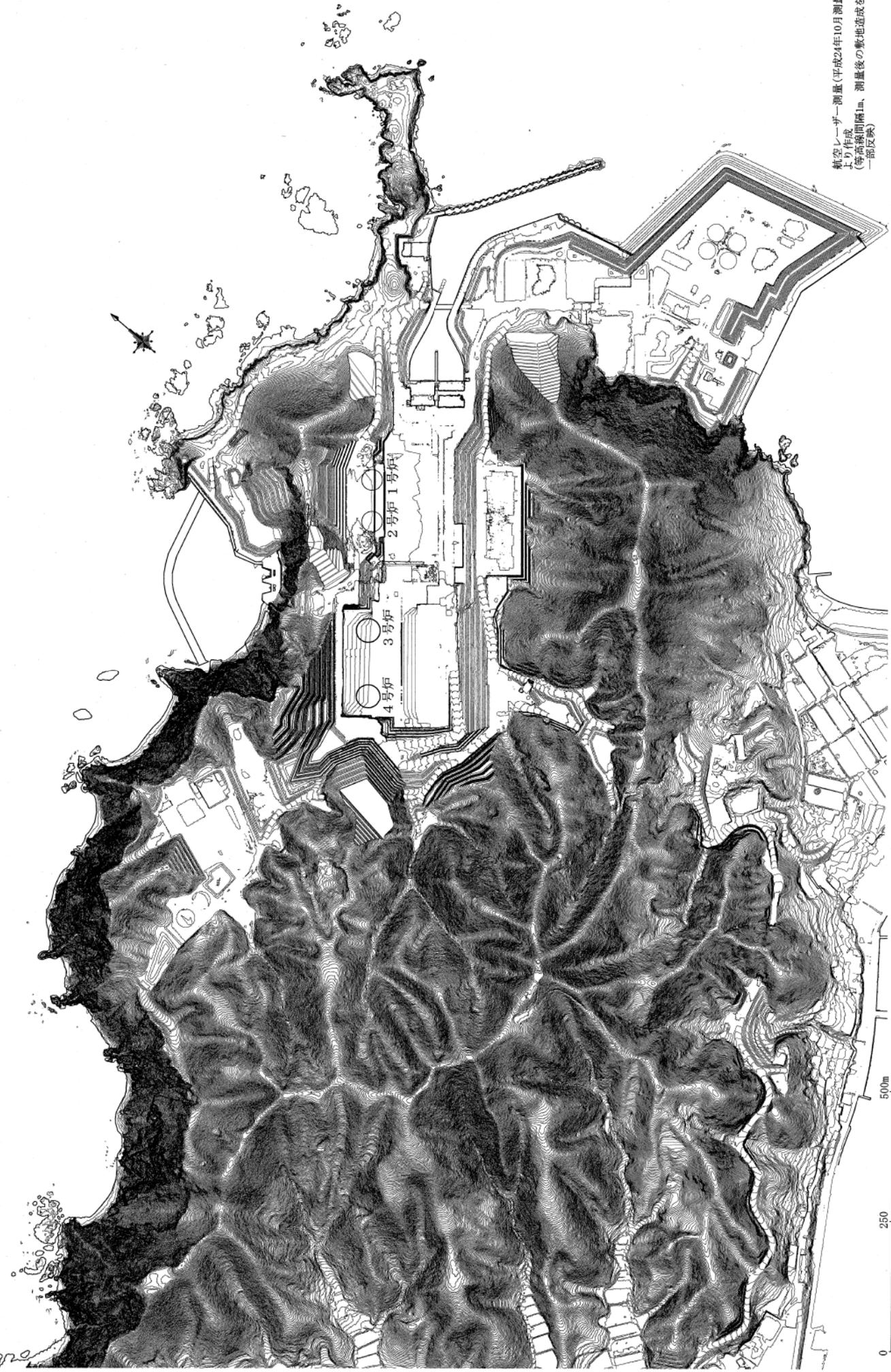
凡 例

- ① 3号及び4号戸緊急時対策設置に
関わる調査ボーリング
- ② 平成24・25・26年調査ボーリング
(※印は斜めボーリング(掘削方向))
- ③ 平成18年前震バックチェックボーリング
(※印は斜めボーリング(掘削方向))
- ④ ①、②、③以外の調査ボーリング
(※印は斜めもしくは水平ボーリング(掘削方向))
- 平成24・25年調査台巻底トレンチ
- 平成24・25年調査山頂トレンチ
- 平成24・25年調査南側トレンチ
- 平成24・25年調査北側トレンチ
- 平成24・25年調査北側トレンチ
- 平成24・25年調査北側トレンチ
- 平成27年磁気探査測線 (線城)
- 平成27年磁気探査測線 (海城)
- 鉄掘坑
- 既往トレンチ
- 附則調査
- 平成18年前震バックチェック時ピット

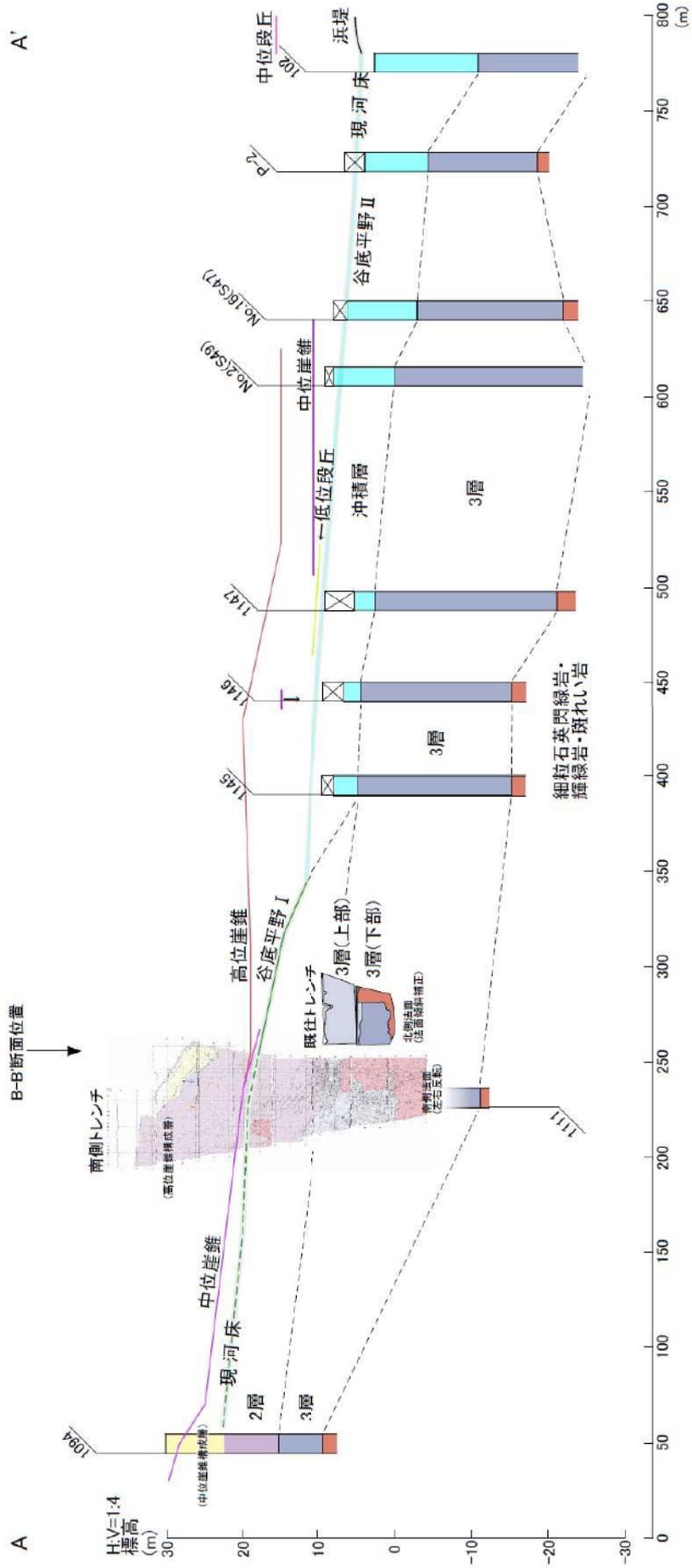


第3.4.1図 敷地の地質調査位置図

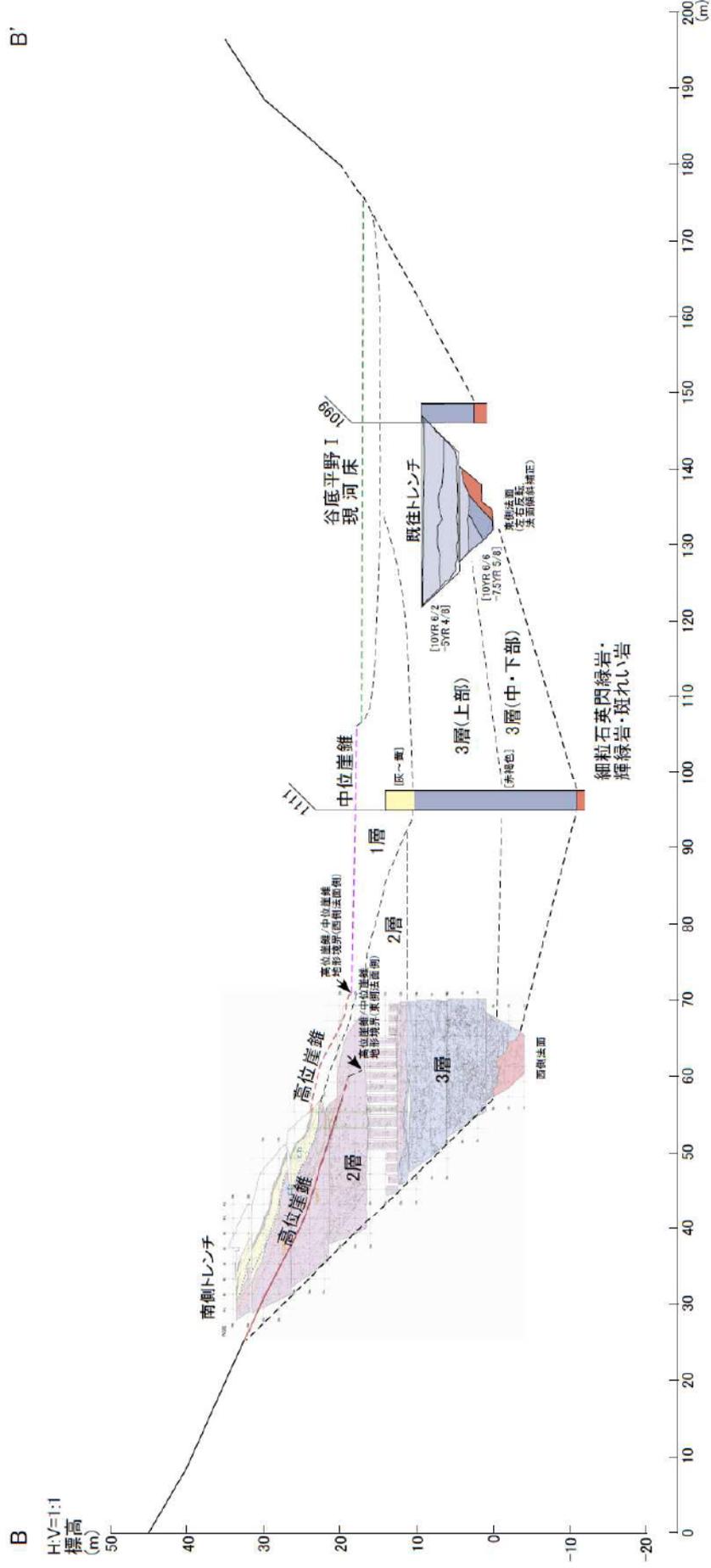
航空レーザー測量(平成24年10月測量)
より作成
(等高線間隔1m、測量後の敷地造成を
一部反映)



第3.4.2図 敷地の地形図



第 3.4.3 図(2) 敷地の地形面区分図(A-A'断面図)



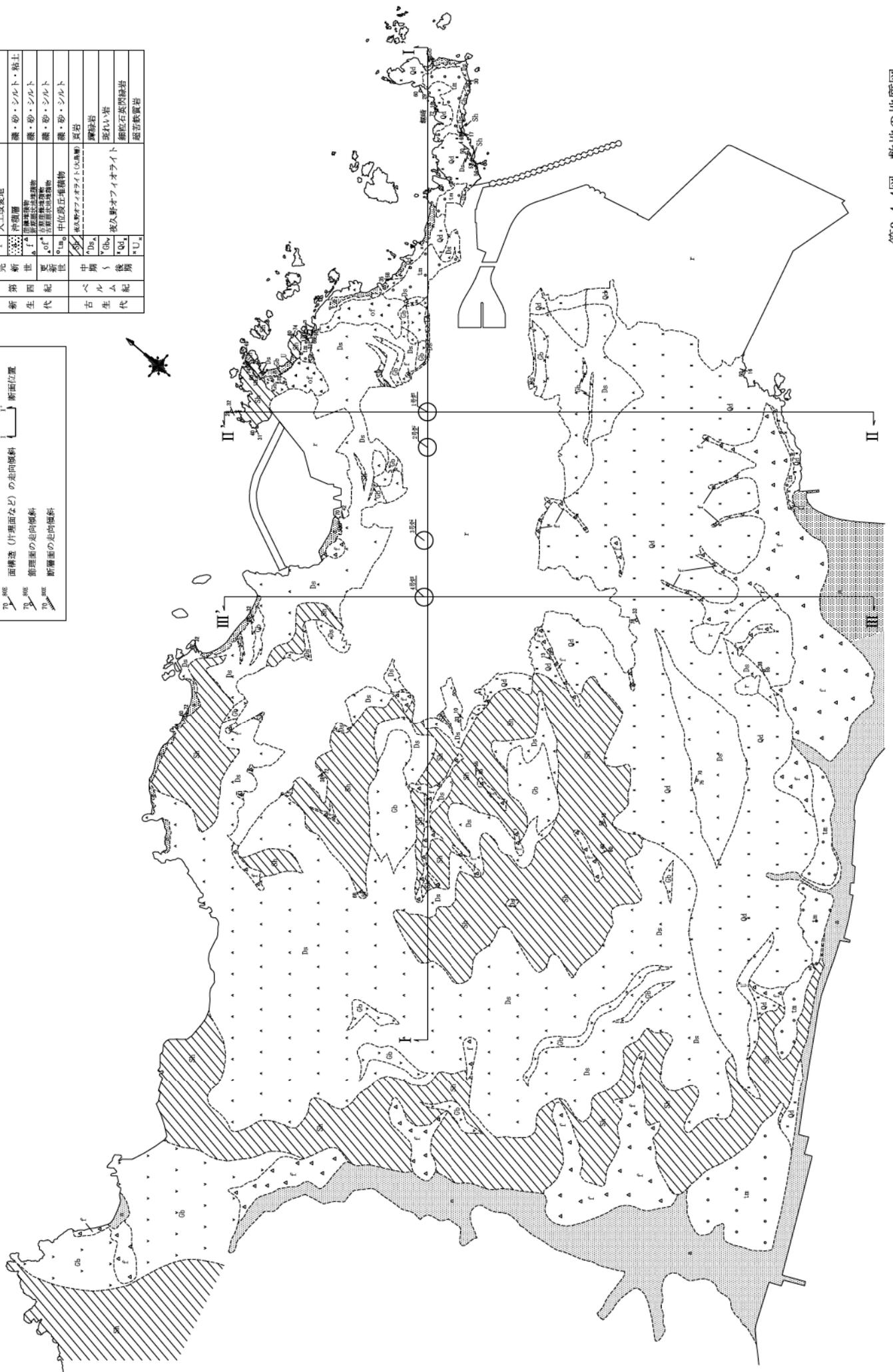
第 3.4.3 図 (3) 敷地の地形面区分図 (B-B' 断面図)

記号凡例

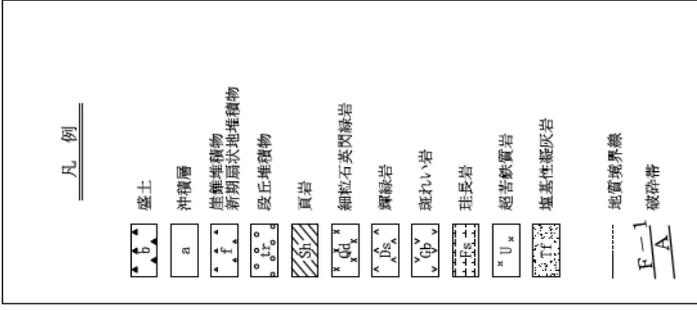
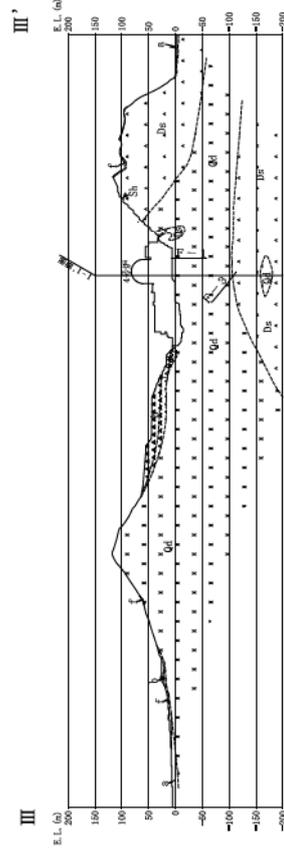
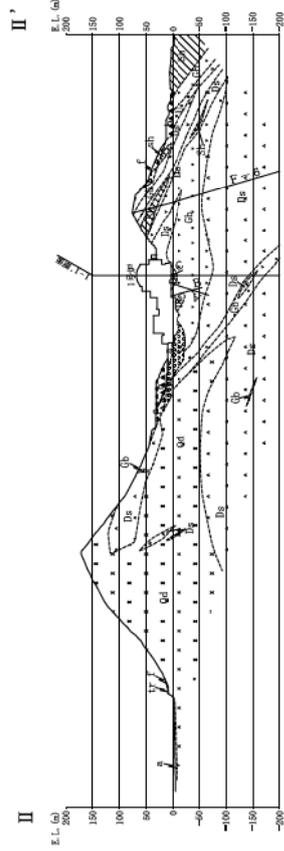
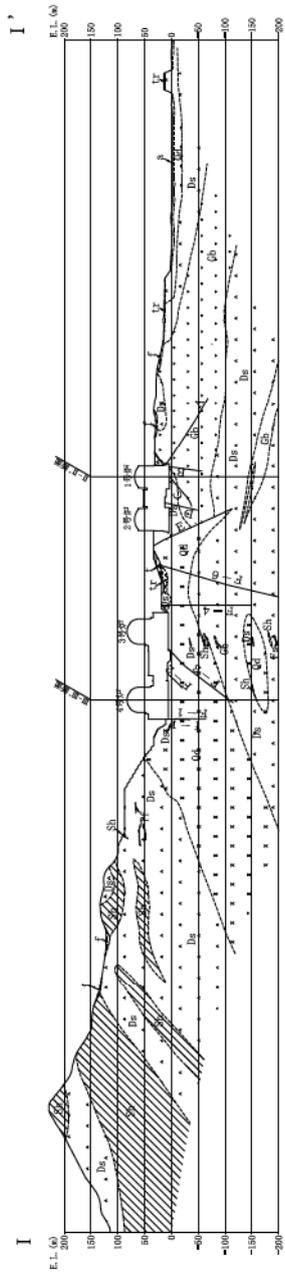
	地層（層理面）の走向傾斜		地質境界線
	面構造（片理面など）の走向傾斜		断面位置
	節理面の走向傾斜		
	断面面の走向傾斜		

地質凡例

地質時代	記号	地質名等	主要構成地層
新第三紀	T	人工改変地	
第四紀	A	沖積層	礫・砂・シルト・粘土
新生代	Q ₁	更新世前期	礫・砂・シルト
	Q ₂	更新世後期	礫・砂・シルト
中生代	Q ₃	中新世	礫・砂・シルト
	Q ₄	古新世	礫・砂・シルト
古生代	D ₃	奥羽オフィオライト(上段)	輝緑岩
	D ₂	奥羽オフィオライト(下段)	斑れい岩
	U ₁	奥羽オフィオライト	細粒石英閃緑岩
	U ₂	超古斑岩	超古斑岩



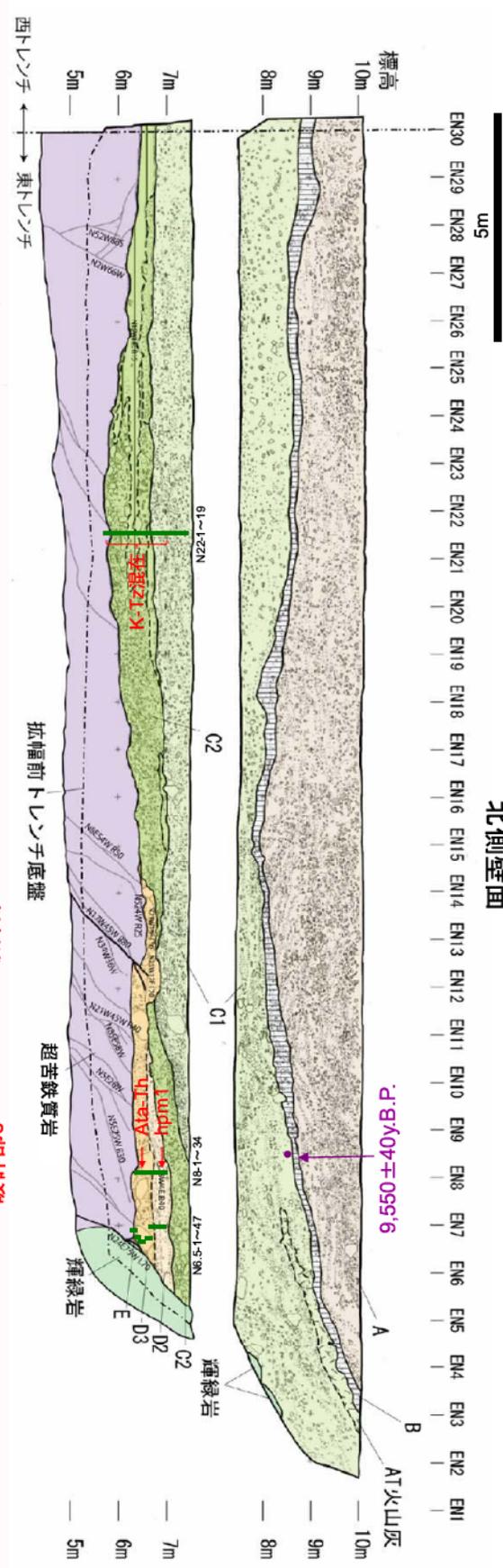
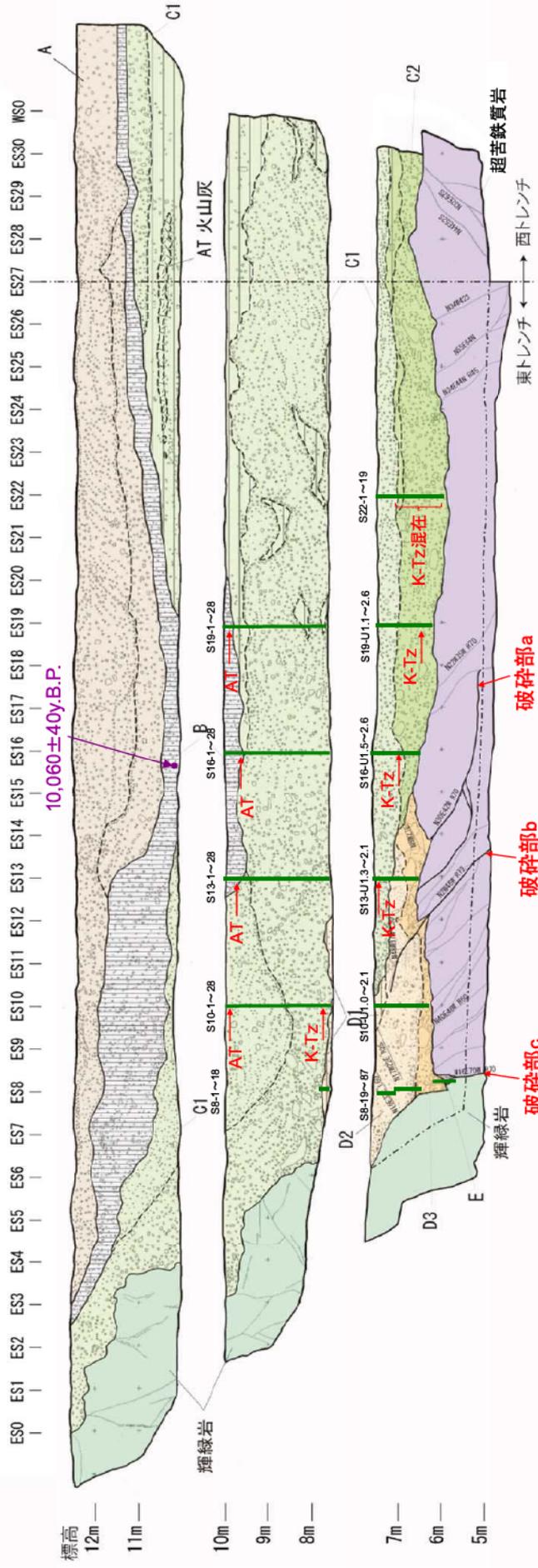
第3.4.4図 敷地の地質図



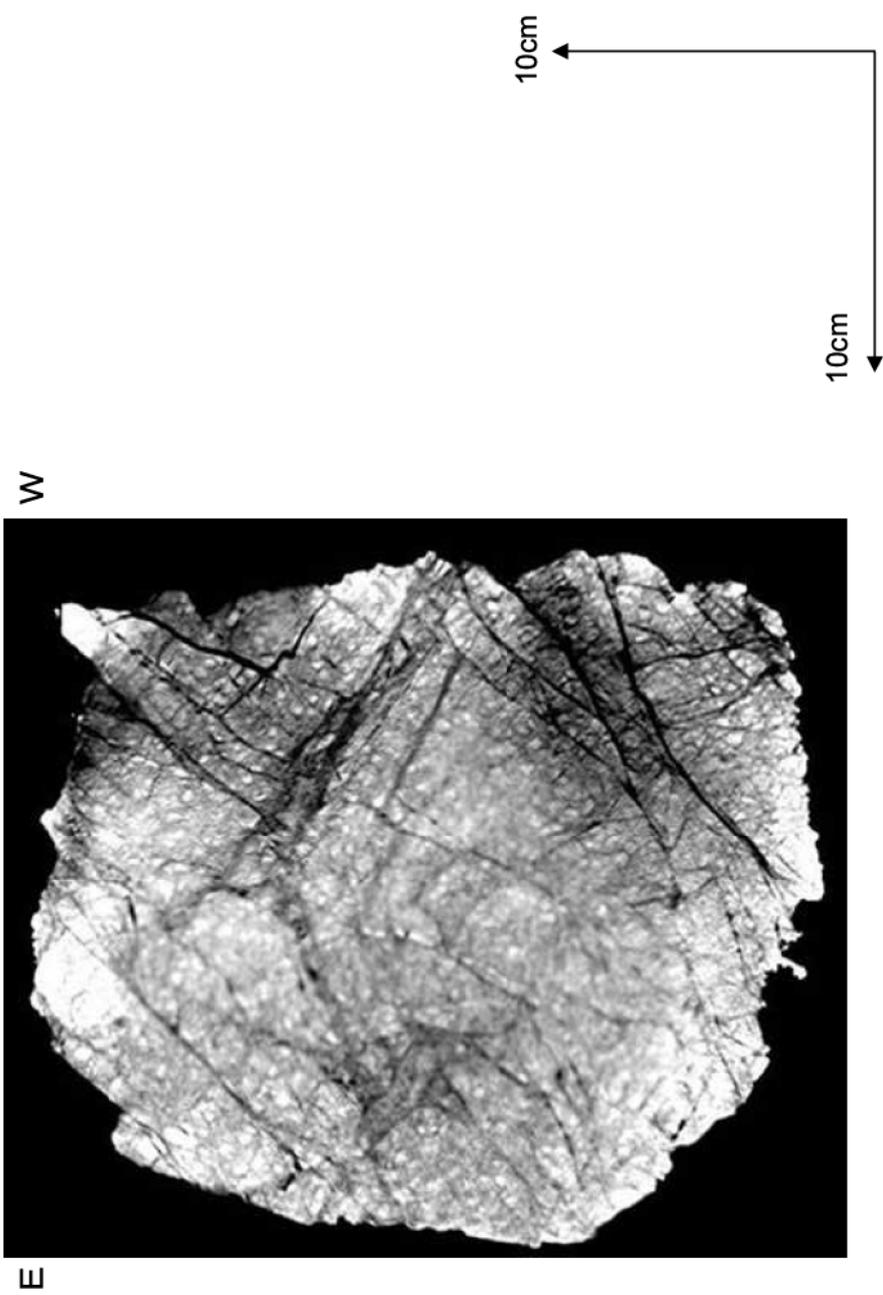
※地質断面図で人工改変地(△)としている部分は、実際に分布する地質で表現した。
 ※断面図作成位置は第3.4.4図に示す。

第3.4.5図 敷地の地質断面図

南側壁面

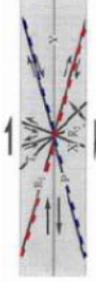


第 3.4.6 図 台場浜トレンチ壁面スケッチ (トレンチ東部)



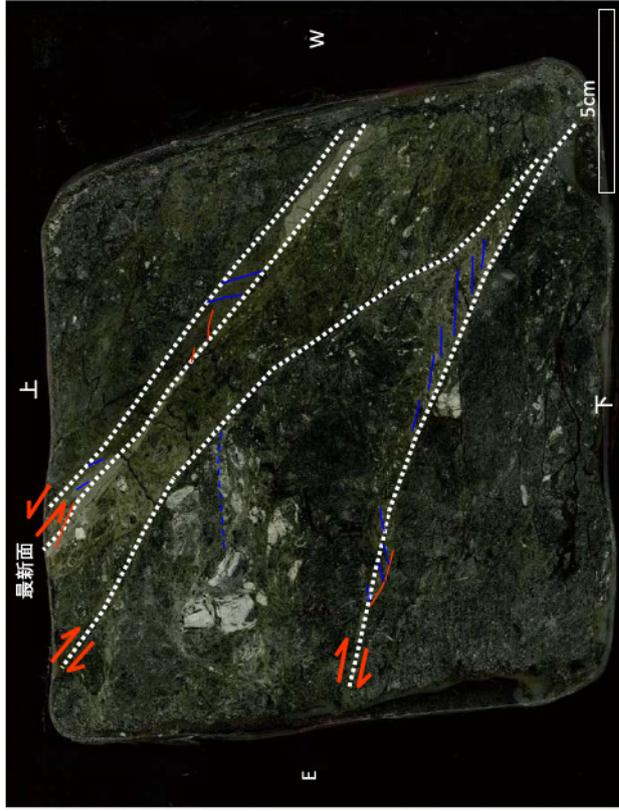
破碎部aの上盤のブロックサンプリングの結果は、全体として無構造の角礫状を呈し、明瞭な複合面構造は認められない。

第3.4.8図 台場浜トレンチ破碎部 a 付近 CT 画像解析結果



せん断センスを示す複合面構造
(狩野・村田、1998)⁽¹⁵³⁾

研磨片(縦ずれ成分観察用)

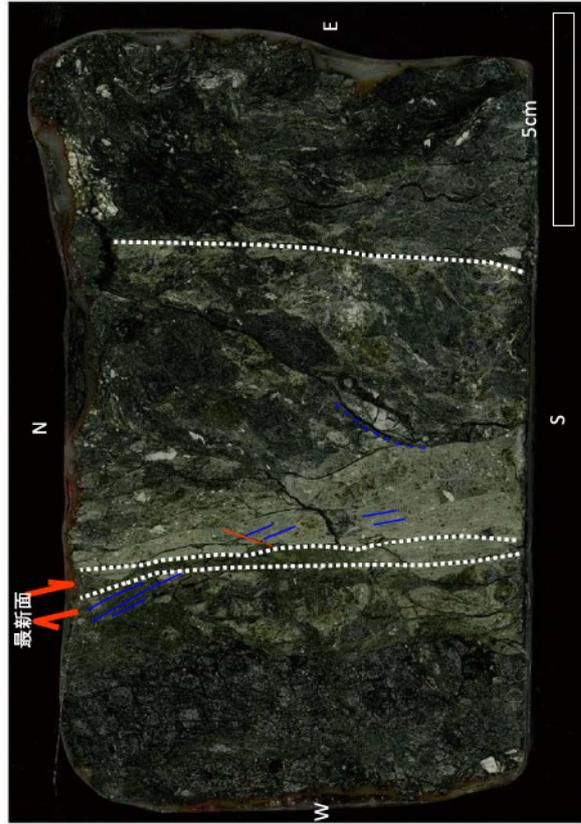


- Y面
- R1面
- P面
- 引きずり構造

研磨片観察結果

- ・主せん断面近傍の複合面構造により、逆断層成分を伴うと考えられる。
- ・せん断面周辺では正断層成分を示す引きずり構造が認められる。

研磨片(横ずれ成分観察用)



- Y面
- R1面
- P面
- 引きずり構造

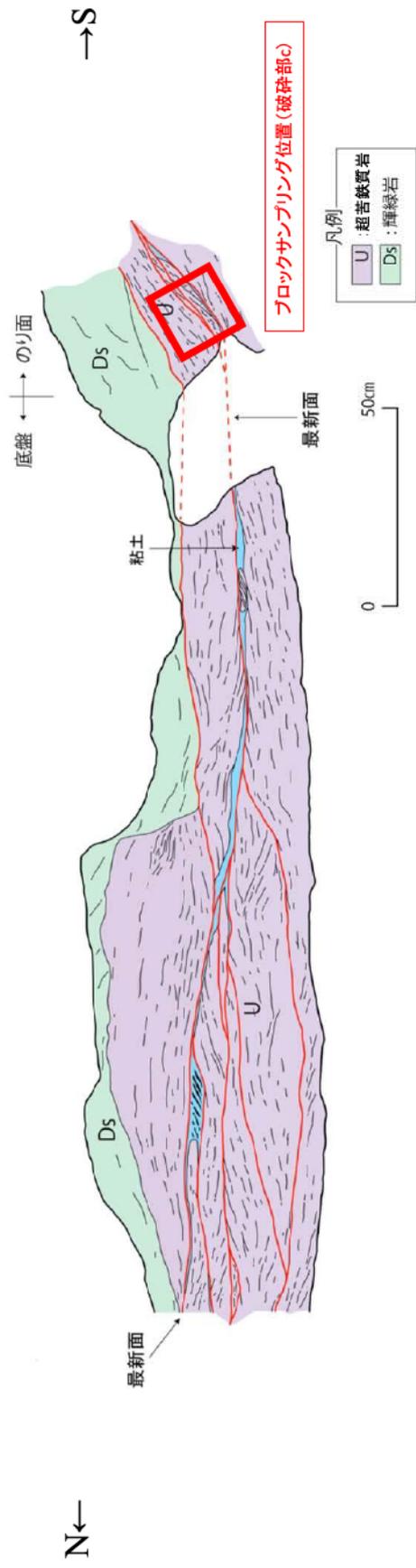
研磨片観察結果

- ・主せん断面近傍で右横ずれ成分のR1面が認められる。
- ・せん断面周辺の引きずり構造により、左横ずれ成分を伴うと考えられる。

第3.4.9図 台場浜トレンチ破砕部b 研磨片観察結果



第 3. 4. 10 図 台場浜トレンチ東端付近写真



輝緑岩 超苦鉄質岩

破砕部c



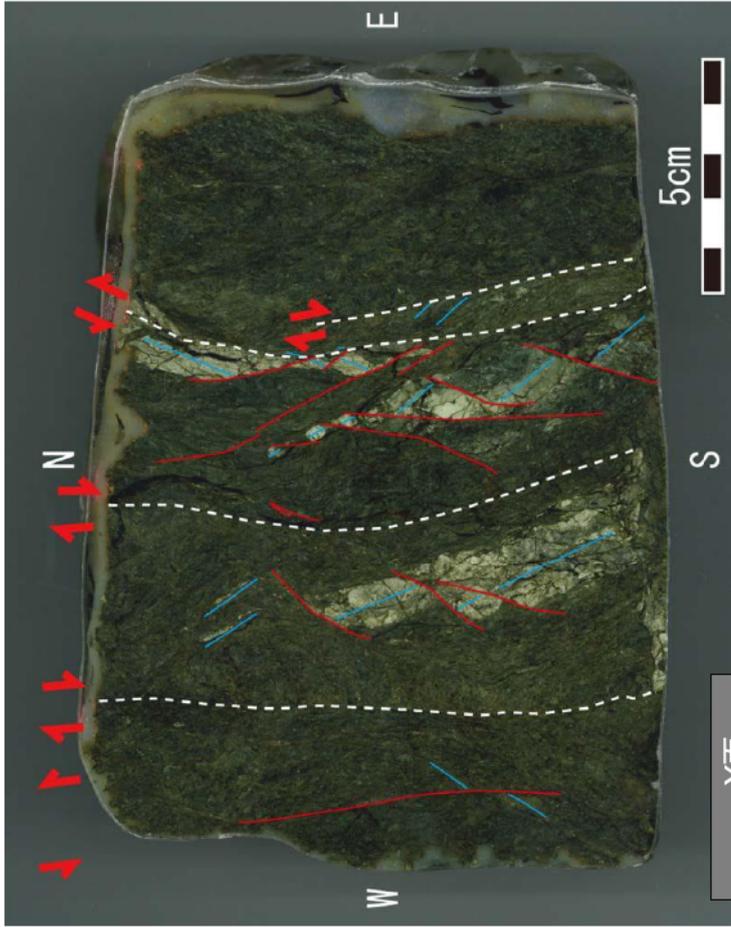
輝緑岩

超苦鉄質岩

輝緑岩と超苦鉄質岩の境界は凹凸を有し、その分布は一部を除き破砕部と一致しない。
この地質境界付近の超苦鉄質岩中に湾曲した数条のすべり面 (破砕部c) が認められる。

第 3.4.11 図 台場浜トレンチ東端付近底盤スケッチ

研磨片(横ずれ成分観察用)

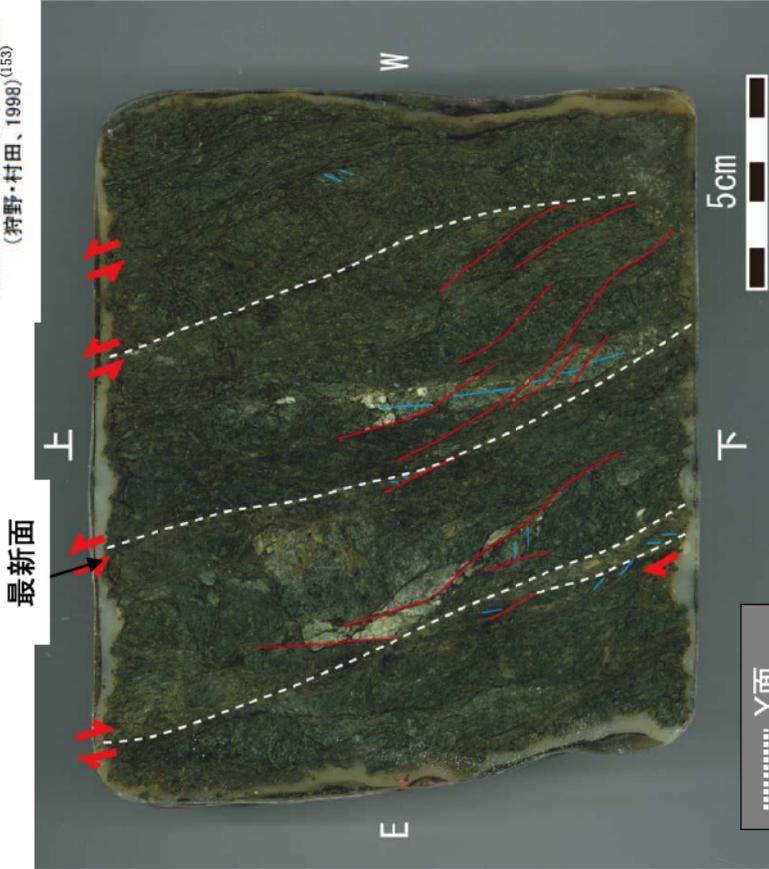


..... Y面
 — R1面
 — P面

研磨片観察結果

- ・黒緑色を呈し、角礫状に破碎された蛇紋岩化した超苦鉄質岩類か
らなり、一部に破碎された白緑色脈を挟む。
- ・P面及びR1面がみられ、右横ずれセセンスを示す部分を主体とし、左横ずれセセンスを示す部分も認められる。縦ずれ成分観察用研磨片中の最新面に対応するY面(図中央)沿いには右横ずれセセンスを示すR1面が認められる。

研磨片(縦ずれ成分観察用)

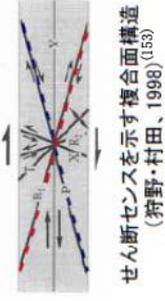


..... Y面
 — R1面
 — P面

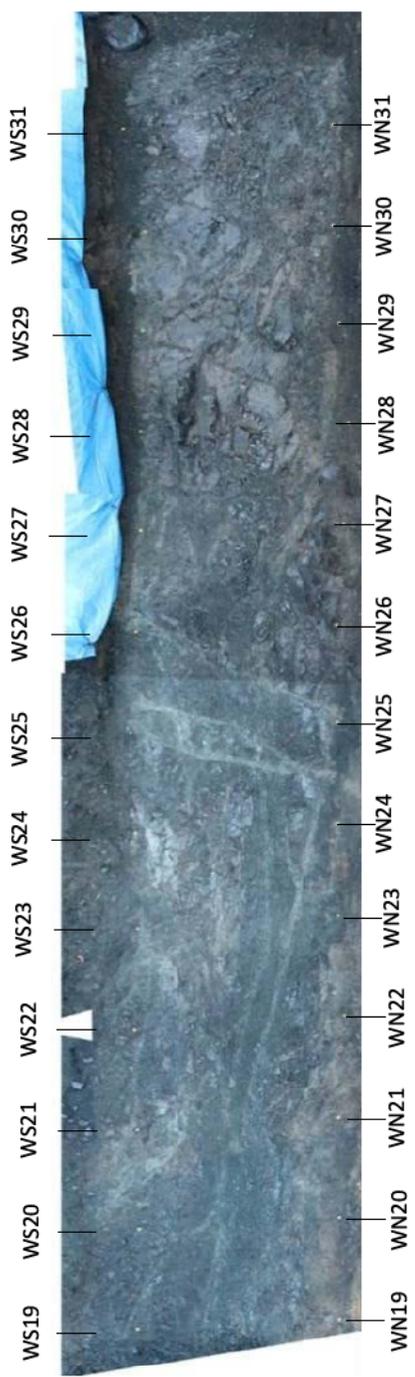
研磨片観察結果

- ・黒緑色を呈し、角礫状に破碎された蛇紋岩化した超苦鉄質岩類か
らなり、一部に破碎された白緑色脈を挟む。
- ・P面及びR1面がみられ、逆断層セセンスを示す部分を主体とし、正断層セセンスを示す部分も認められる。最新面に沿っては逆断層セセンスが認められる。

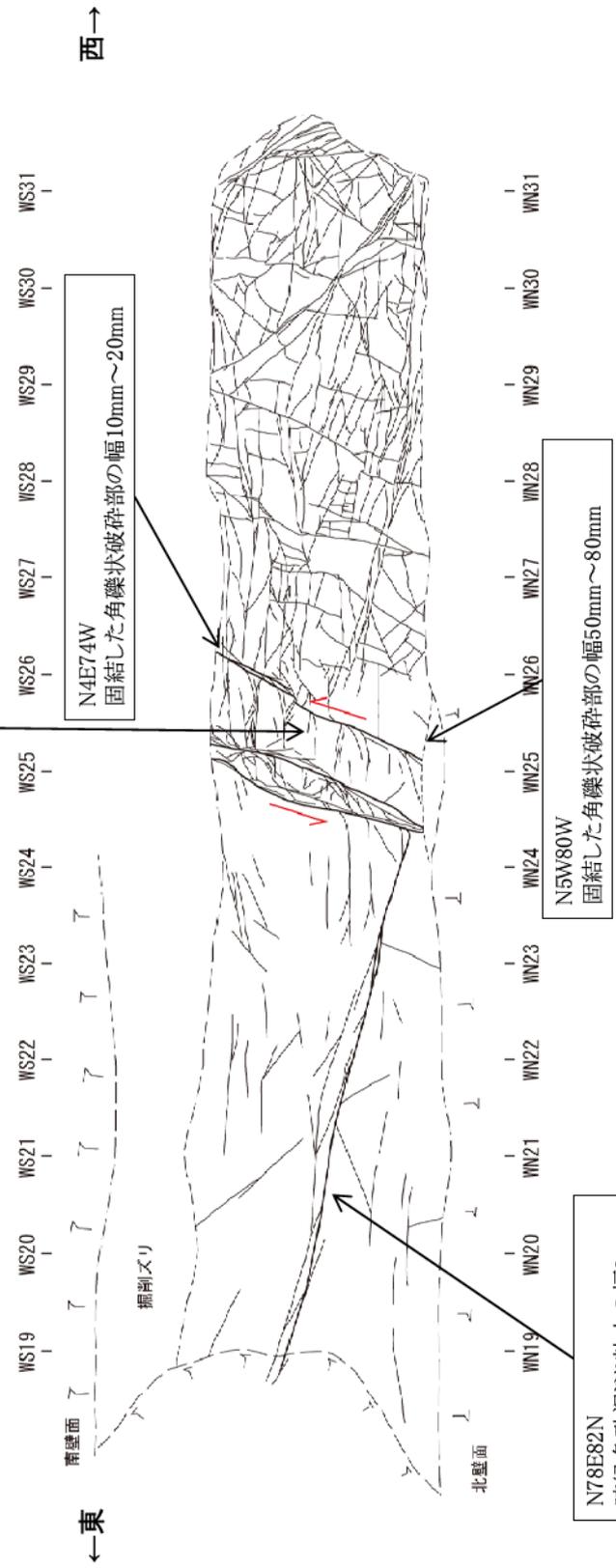
第3.4.12図 台場浜トレンチ破碎部c 研磨片観察結果



せん断セセンスを示す複合面構造
 (狩野・村田、1998) (US)



N5W80W
2本のせん断面に挟まれた部分は角礫状破砕部主体。
左横ずれを示す構造を伴う。

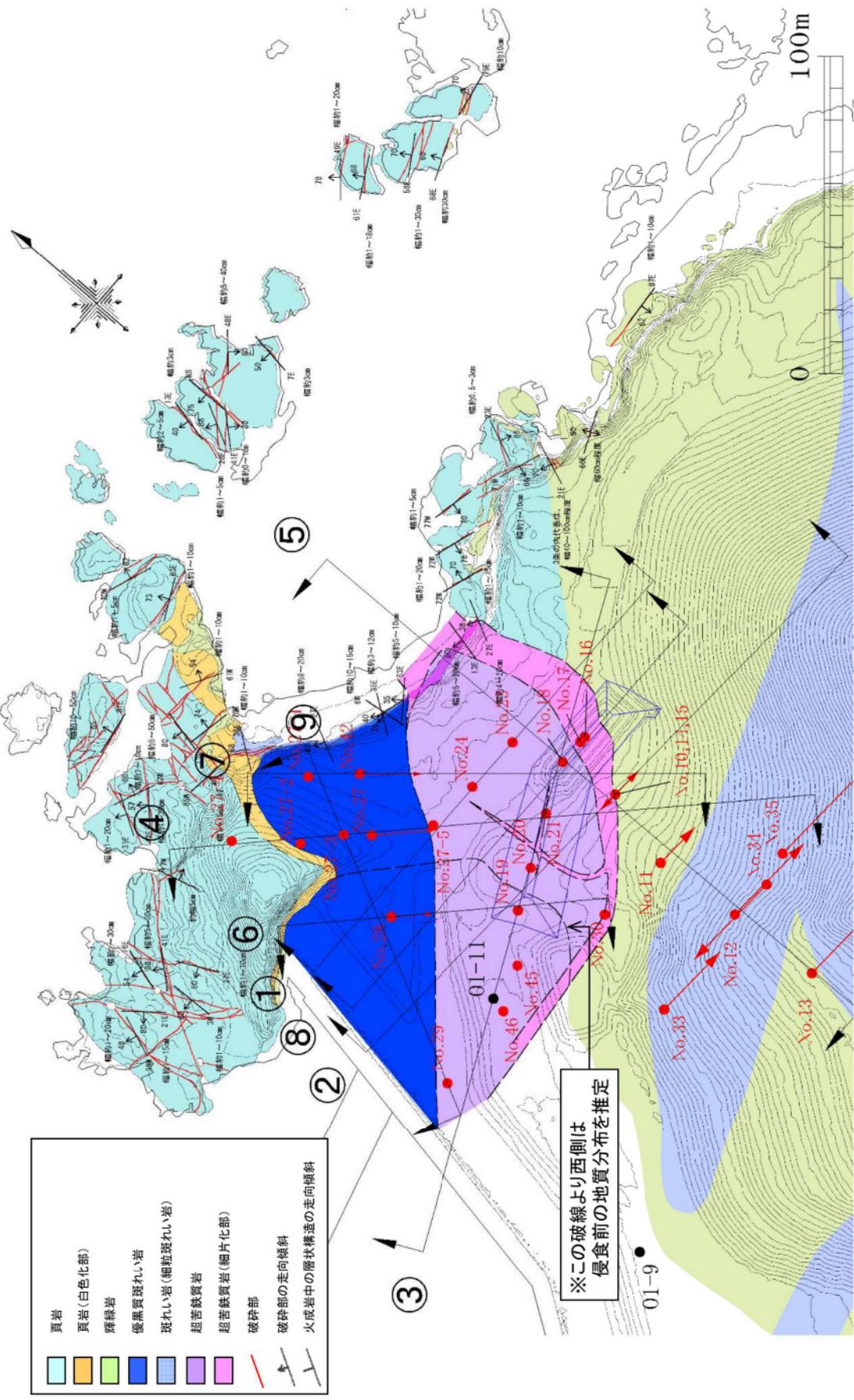


N78E82N
暗緑色砂混じり粘土の幅2mm

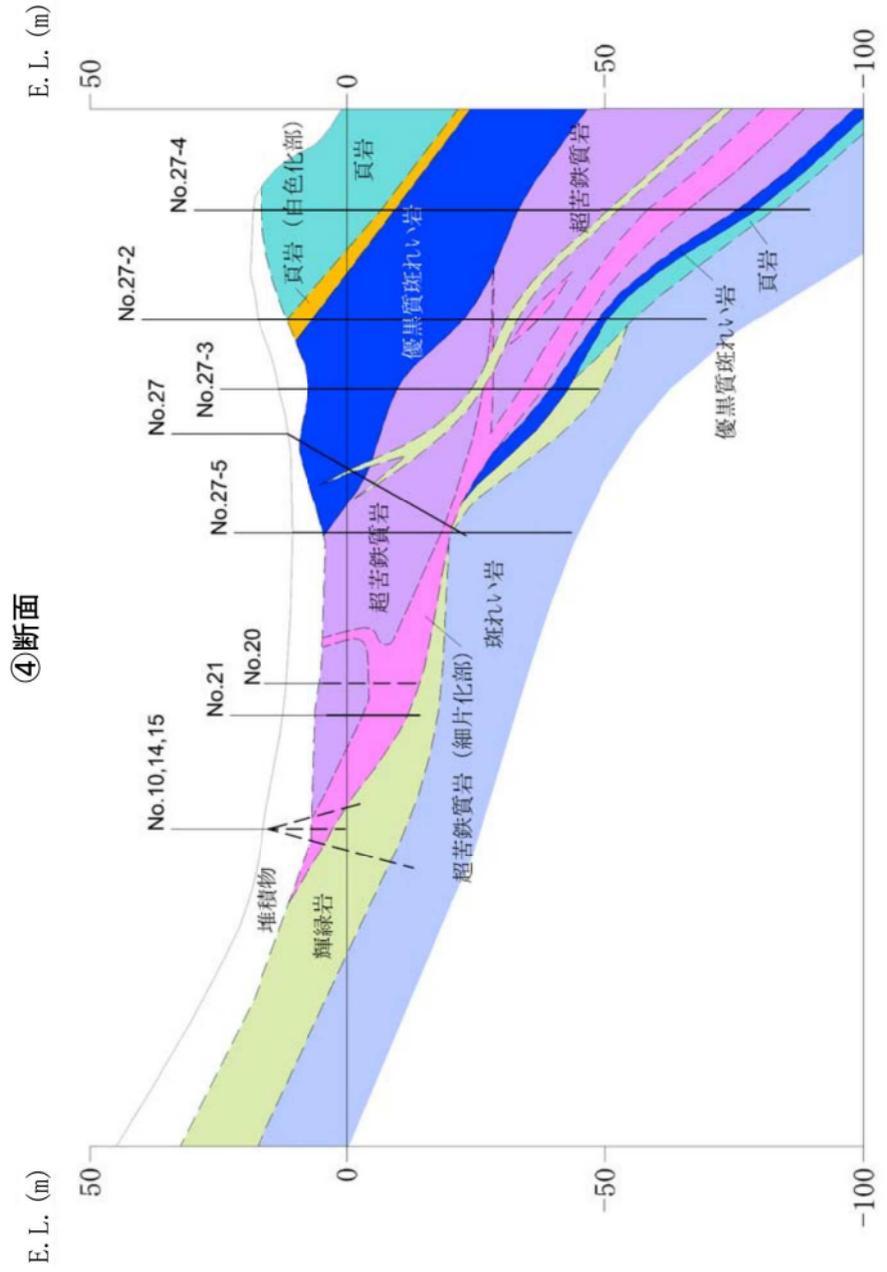
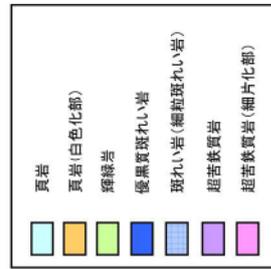
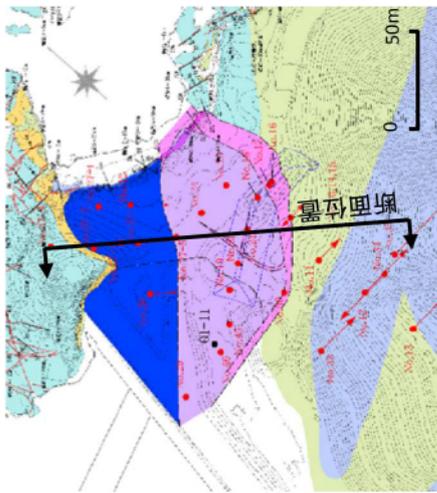
西→

←東

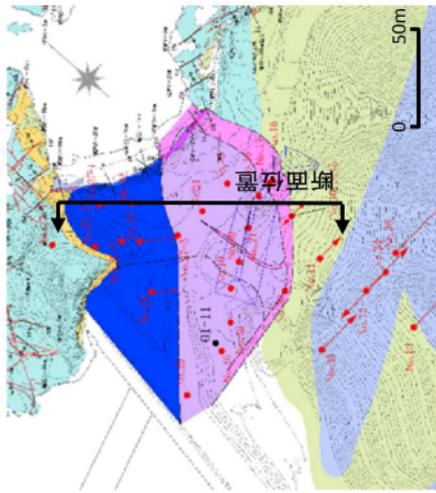
第 3.4.14 図 台場浜トレンチ底盤スケッチ (トレンチ西部)



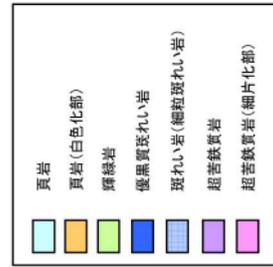
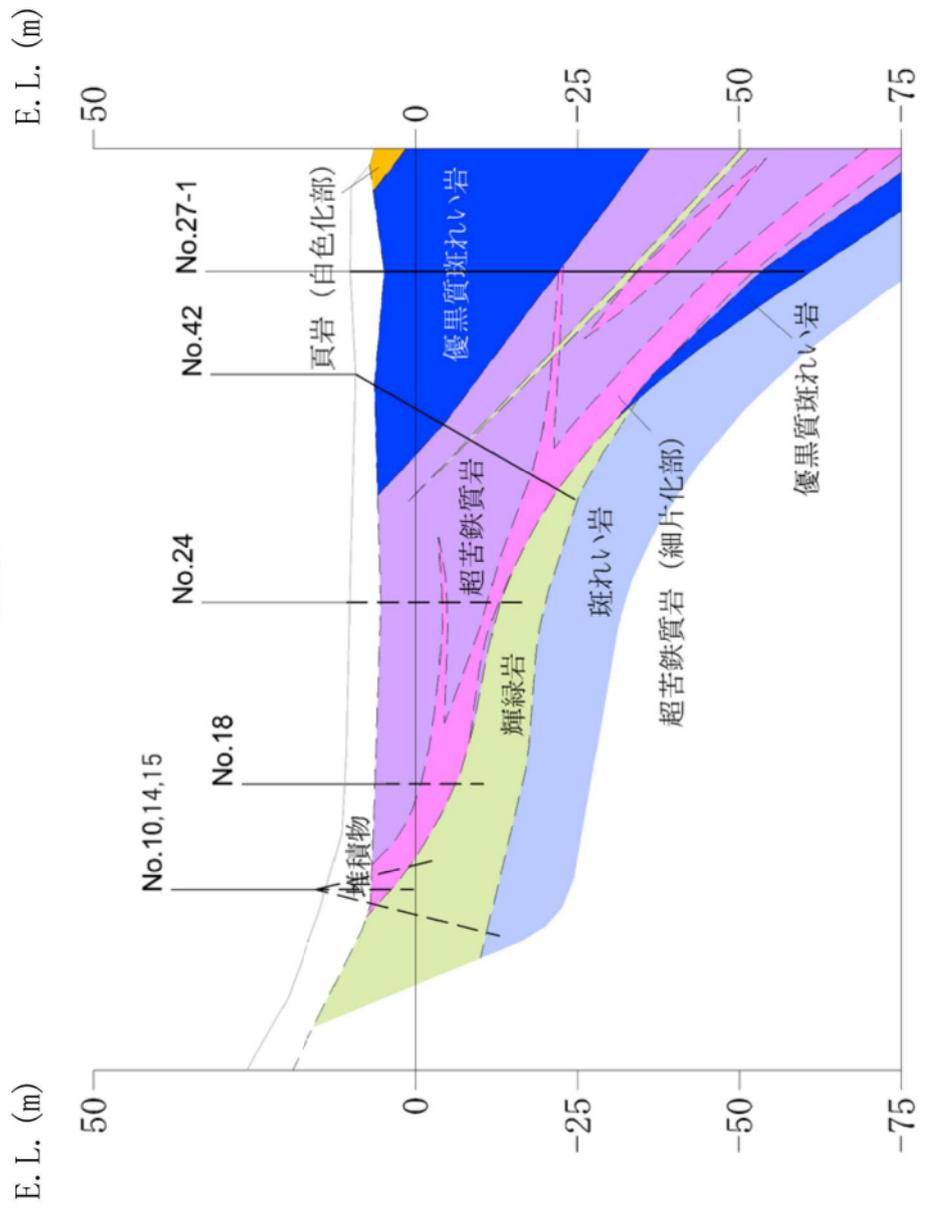
第 3.4.15 図 台場浜付近 地質分布図



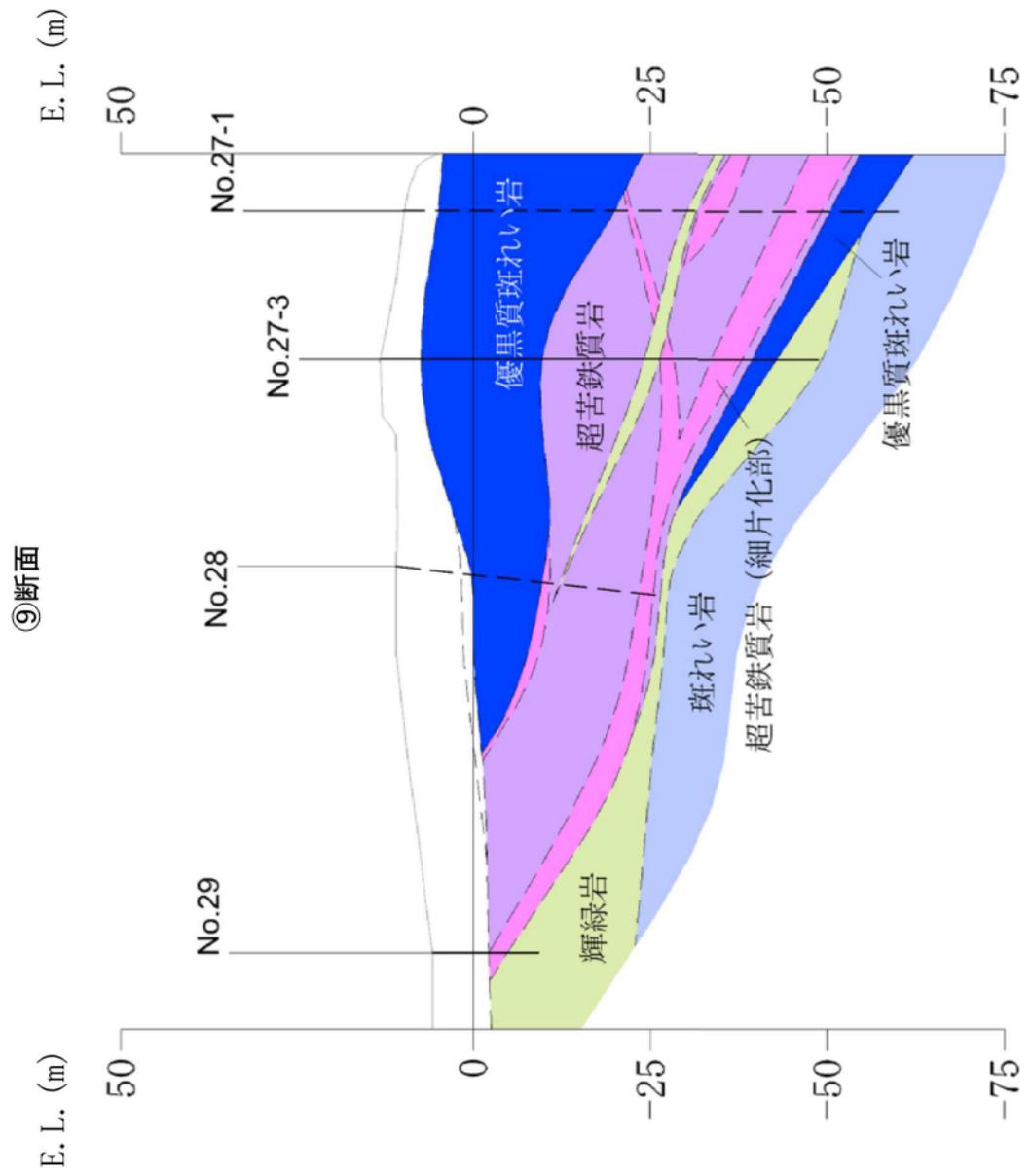
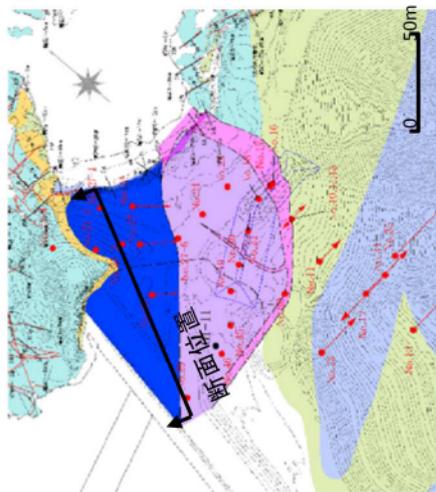
第 3. 4. 16 図(1) 台場浜付近 地質断面図 (④断面)



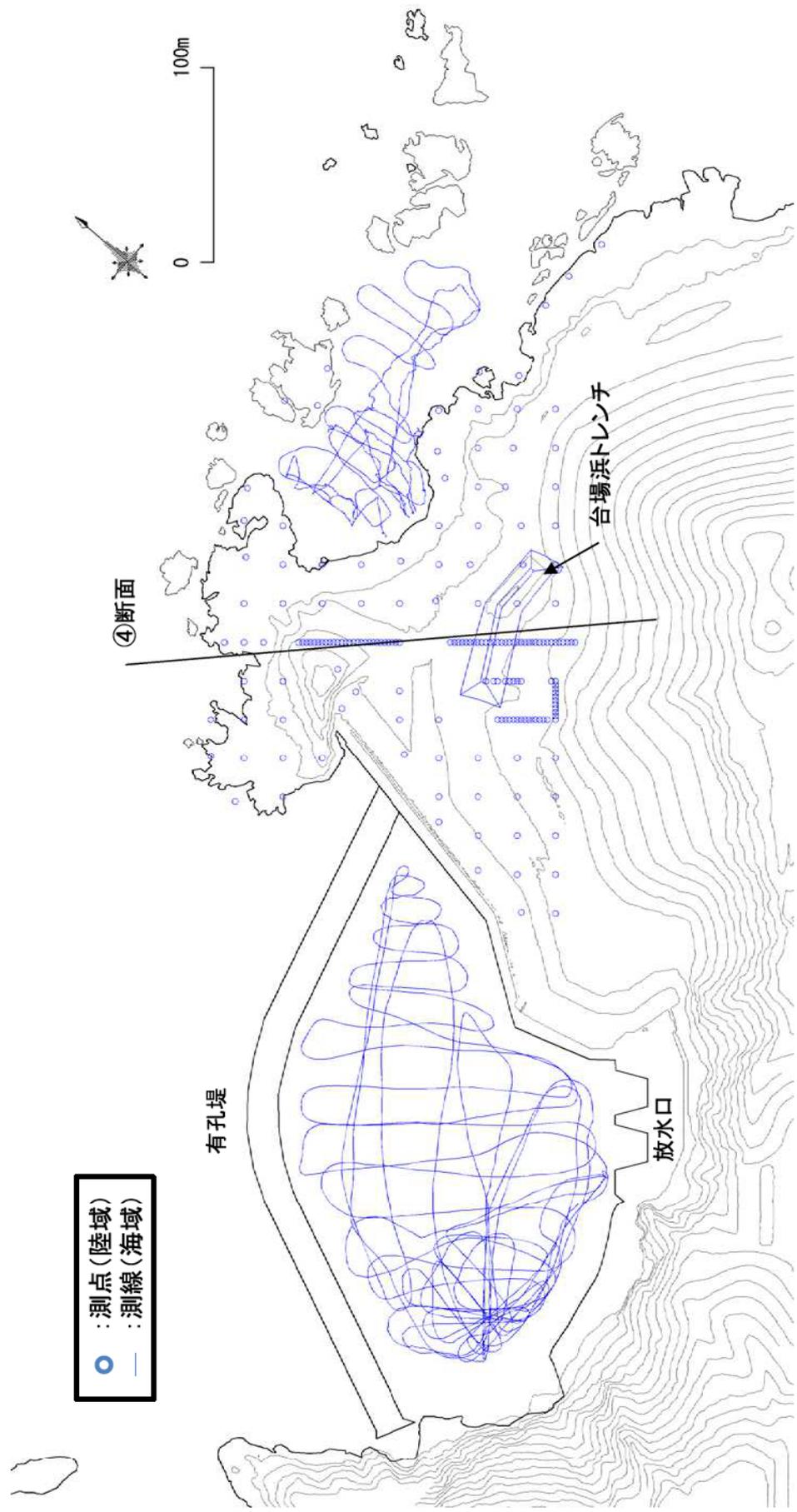
⑦断面



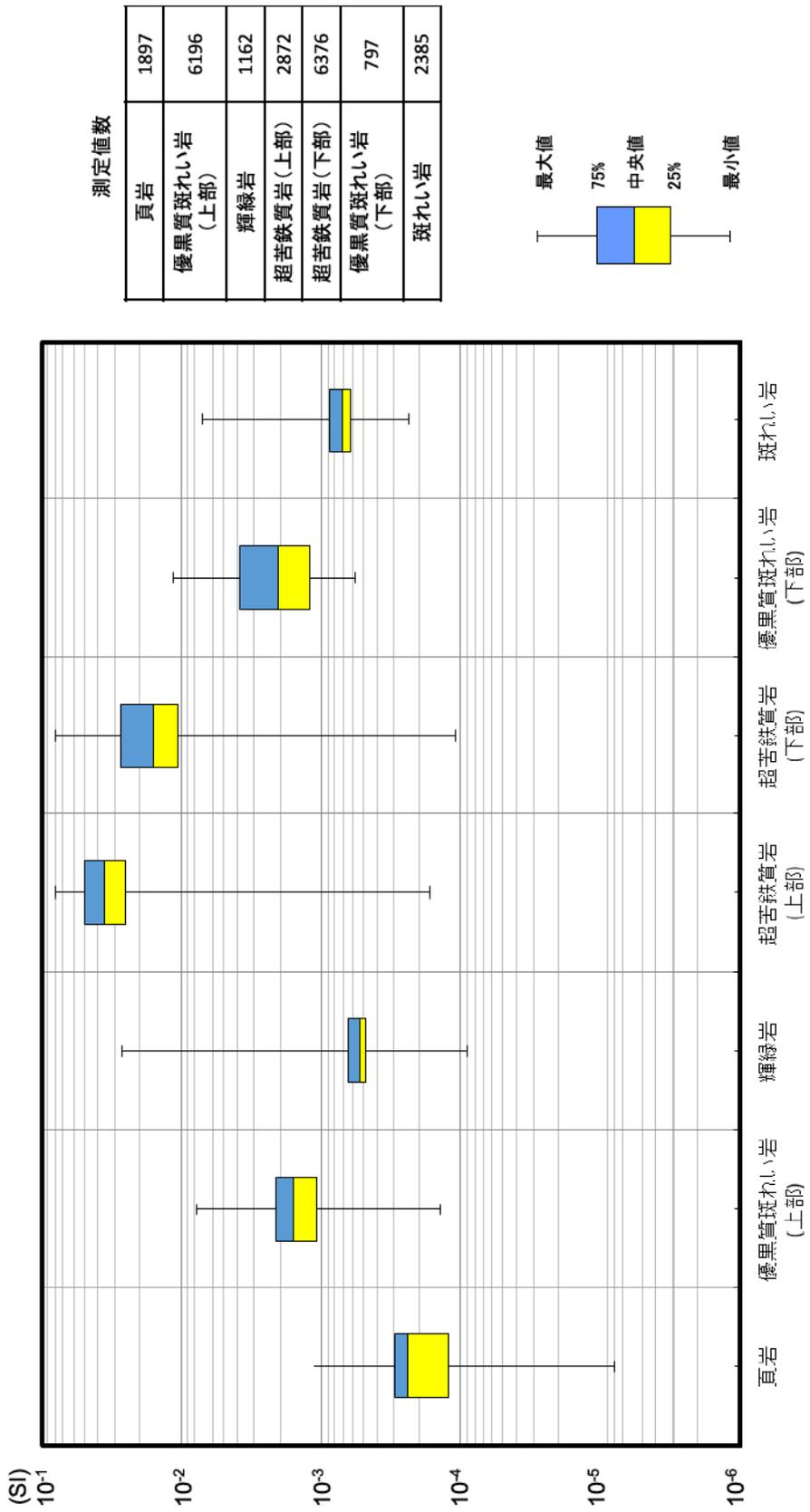
第 3. 4. 16 図 (2) 台場浜付近 地質断面図 (⑦断面)



第 3. 4. 16 図 (3) 台場浜付近 地質断面図 (⑨断面)

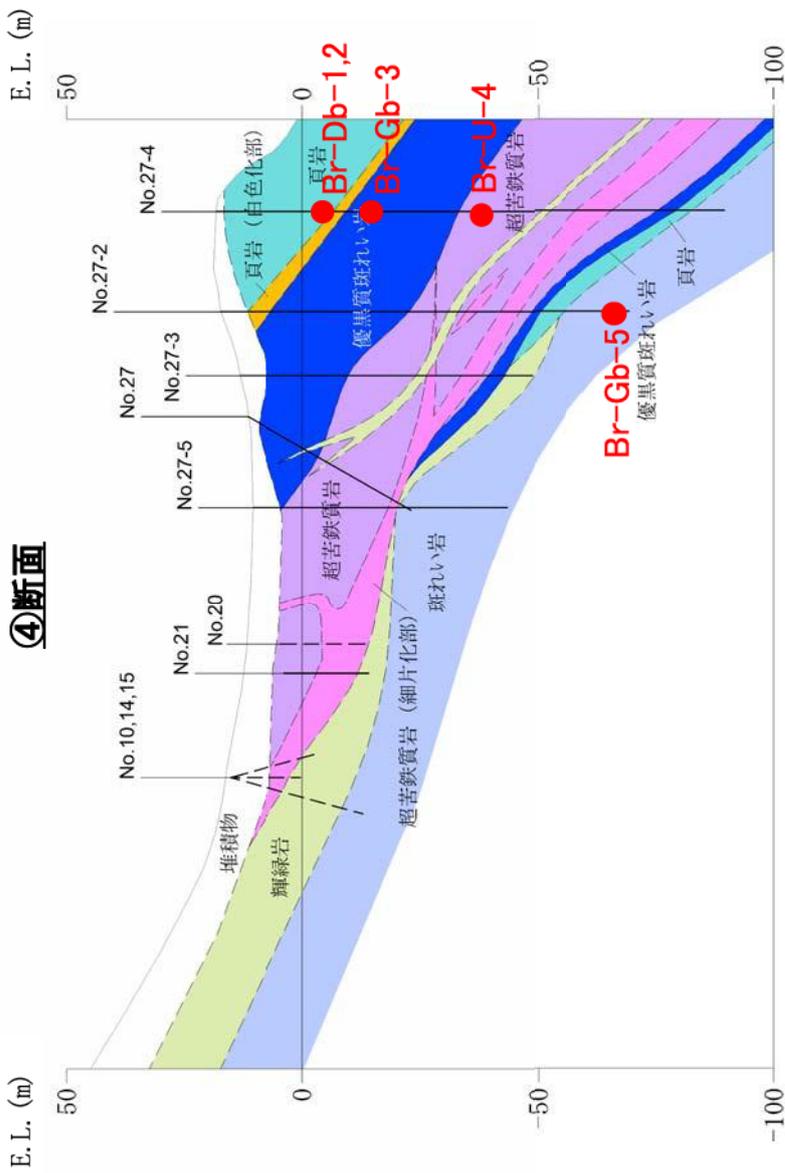


第 3.4.17 図 台場浜付近 磁気探査位置図



- 台場浜周辺のボーリングのうち、No. 27-1、No. 27-2、No. 27-3、No. 27-4、No. 27-5、No. 27、No. 42孔の帯磁率を用いて、地質ごとに帯磁率を取りまとめた。
- 超苦鉄質岩は、挟在する輝緑岩より上部を「超苦鉄質岩 (上部)」、下部を「超苦鉄質岩 (下部)」と区分した。
- 優黒質斑れい岩は、超苦鉄質岩の上位を「優黒質斑れい岩 (上部)」、下位を「優黒質斑れい岩 (下部)」とした。

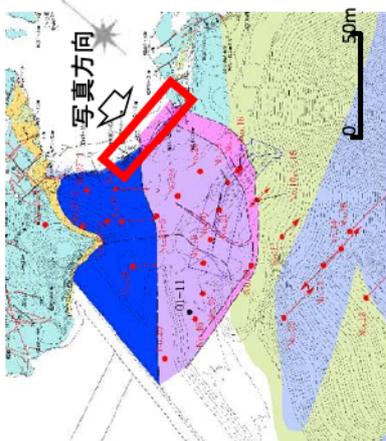
第 3. 4. 18 図 台場浜付近 帯磁率測定結果



試料番号	ボーリング孔	深度 (m)	岩種	帯磁率 ($\times 10^{-6}$ (SI))	伏角 ($^{\circ}$)	残留磁気強度 ($\times 10^{-3}$ (A/m))	Q値	残留磁気 の方向
Br-Db-1	No. 27-4	28.7	輝緑岩	57	9.8	1.9	0.11	正帯磁
Br-Db-2	No. 27-4	24.4	輝緑岩	60	10.9	3.3	0.18	正帯磁
Br-Gb-3	No. 27-4	29.1	優黒質斑れい岩	161	-14.6	9.2	0.19	逆帯磁
Br-U-4	No. 27-4	54.7	超苦鉄質岩	6307	-13.3	4465.7	2.29	逆帯磁
Br-Gb-5	No. 27-2	81.6	細粒斑れい岩	114	25.9	5.3	0.16	正帯磁

ボーリングコア試料のため方位復元が困難であり、偏角は測定不可

第 3.4.19 図(1) 台場浜付近 残留磁気測定結果(1)



● 帯磁率
($\times 10^{-3}(\text{SI})$)

超苦鉄質岩/優黒質斑れい岩境界

試料番号	岩種	帯磁率 ($\times 10^{-5}(\text{SI})$)	偏角 ($^{\circ}$)	伏角 ($^{\circ}$)	残留磁気強度 ($\times 10^{-3}(\text{A/m})$)	Q値	残留磁気 の方向
Oc-Gb-1	優黒質斑れい岩	116	-0.88	56.42	6.5	0.15	正帯磁
Oc-Gb-2	優黒質斑れい岩	114	7.49	54.34	7.3	0.17	正帯磁
Oc-Gb-3	優黒質斑れい岩	97	42.29	28.35	5.1	0.14	正帯磁
Oc-U-4	超苦鉄質岩	2083	13.99	43.19	424.7	0.53	正帯磁
Oc-U-5	超苦鉄質岩	864	0.17	64.80	177.7	0.54	正帯磁
Oc-U-6	超苦鉄質岩	943	-1.05	63.62	195.2	0.53	正帯磁
Oc-U-7	超苦鉄質岩	1201	-17.94	61.25	238.2	0.52	正帯磁

第3.4.19 図(2) 台場浜付近 残留磁気測定結果(2)